

学部留学生を対象とする言語文化「日本語」

浮 葉 正 親

学部 に在籍する留学生が大学で所定の単位を取得していくためには、講義を聴く、ノートをとる、ゼミで発表する、レポート・答案を書く、ディスカッションをするなど、高度な日本語運用能力が要求される。授業ではそのための訓練を行うとともに、日本人学生や教官とのコミュニケーション能力の育成や、日本社会・文化に対する理解を深めることを目的としている。

2009年度言語文化「日本語」の科目および受講者数は以下の通りであった。

期	対象	内容	時間	担当者	受講者数	コード
1 期（1 年前期）	文系	文章表現	月 3 限	秋山	15	0011323
		口頭表現	木 3 限	西田	16	0014323
	理系	文章表現	火 2 限	村上	6	0012241
		口頭表現	木 2 限	西田	6	0014242
	工学（国）	口頭表現	月 2 限	秋山	8	0011258
		文章表現	水 2 限	魚住	8	0013253
	工学（私）	文章表現	月 2 限	村上	12	0011259
		口頭表現	水 2 限	鷺見	10	0013254
2 期（1 年後期）	文系	文章表現	木 3 限	村上	16	0024323
		口頭表現	金 2 限	秋山	15	0025223
	理系	文章表現	火 2 限	村上	6	0022240
		口頭表現	木 2 限	西田	6	0024240
	工学（国）	口頭表現	月 2 限	西田	11	0021262
		文章表現	水 1 限	魚住	11	0023143
	工学（私）	文章表現	月 2 限	秋山	9	0021259
		口頭表現	水 1 限	鷺見	10	0023144
3 期（2 年前期）	文系	文章表現	火 1 限	浮葉	12	0031507
4 期（2 年後期）	文系	文章表現	木 1 限	浮葉	13	0044112

クラス

文系：文学部・教育学部・法学部・経済学部・情報文化学部社会システム情報学科

理系：医学部・理学部・農学部・情報文化学部自然情報学科

工学（国）：工学部（国費留学生・政府派遣留学生）

工学（私）：工学部（私費留学生・日韓理工系留学生）

授業内容

1 年前期

文系・文章表現

読む力、書く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をする。最終目標は、共通テーマに基づくレポート作成にある。共通テーマは「グローバルゼーション」である。「市場原理主義」「グローバル・キャピタル」「グローバルゼーションへの懸念」の各小テーマに関する資料を

読むなかで読む力の養成を、そしてレポート作成作業のなかで書く力を養成する。

文系・口頭表現

大学という環境における教室内外の日本語の使用能力を高めることを目標として授業を行った。分かりやすく伝えるための方法を学び、魅力的に話すための練習をした。具体的には、日本語ネイティブと同じクラスでわかりやすい発表ができるために、ラベリング、オーダリング、ナンバリング等の技術を学び、同じ素材を使って話す順序を変えることにより効果が異なる

ということ実践的に学んだ。

理系・文章表現

メール文、マニュアルなど説明文、事実文と意見文など多様な文章表現の書き方を学習した。ピア・レスポンスなどを取り入れ、読み手の立場に立って互いの文章を検討し、論理的でわかりやすい文章を書く演習を行った。また、レポートを書くための基本的技能を段階的に学習した。授業では Can-do-statements による各自の自己評価に基づき、改善したい点を意識的に学習していけるよう記録をつけポートフォリオを作成した。

理系・口頭表現

大学という環境における教室内外の日本語の使用能力を高めることを目標として授業を行った。分かりやすく伝えるための方法を学び、魅力的に話すための練習をした。具体的には、日本語ネイティブと同じクラスでわかりやすい発表ができるために、ラベリング、オーダリング、ナンバリング等の技術を学び、同じ素材を使って話す順序を変えることにより効果が異なるということ実践的に学んだ。

工学系（国費）・文章表現

読解能力と論理的文章作成の基礎力養成を目的に、日本の大学生・文化・社会や科学技術を扱った新聞等の読解、要約・意見・ポイントを整理して書く練習を行った。その他、板書文字、文体、句読点、原稿用紙やメール・レジュメの書き方の学習、発表を行った。

工学系（国費）・口頭表現

話す力、聞く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で話す練習、聞く練習をする。最終目標は、共通テーマに基づく口頭発表にある。共通テーマは「格差と成果主義」である。「戦後日本社会の富裕層」「現代日本社会の格差」「成果主義」の各小テーマに関する資料を利用し、情報伝達、大意伝達、質疑応答などの活動を通じて話す力の養成を行う。

工学系（私費）・文章表現

メール文、マニュアルなど説明文、事実文と意見文など多様な文章表現の書き方を学習した。ピア・レス

ポンスなどを取り入れ、読み手の立場に立って互いの文章を検討し、論理的でわかりやすい文章を書く演習を行った。また、レポートを書くための基本的技能を段階的に学習した。授業では Can-do-statements による各自の自己評価に基づき、改善したい点を意識的に学習していけるよう記録をつけポートフォリオを作成した。

工学系（私費）・口頭表現

『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』を参考資料として用いながら、以下の3つの活動を並行して進めた。

- 1) プレゼンテーションに必要な表現の確認と運用の練習
- 2) プレゼンテーションを聞いてメモをとり、聞いた内容をまとめる練習
- 3) プレゼンテーションの準備と実践(内容を豊かにするための活動・参考資料の活用・日本人を対象にしたインタビュー調査・アウトラインの作成・発表資料の作成)

1年後期

文系・文章表現

話す力、聞く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で話す練習、聞く練習をする。最終目標は、共通テーマに基づく口頭発表にある。共通テーマは「格差と成果主義」である。「戦後日本社会の富裕層」「現代日本社会の格差」「成果主義」の各小テーマに関する資料を利用し、情報伝達、大意伝達、質疑応答などの活動を通じて話す力の養成を行う。

文系・口頭表現

ロールプレイによる口頭表現や、ディスカッション表現を学習した。8つのテーマを全員で決め1人につき3回のディベートを体験し、その録画をもとに意見や反論・質問などの仕方を話し合った。最後に各自提言スピーチで論理的・説得的な話し方の工夫を準備・実行・評価した。学習の目標を立て、プロセス、振り返りを記録したポートフォリオを提出した。評価は授業中のタスク・パフォーマンスおよびポートフォリオによった。

理系・文章表現

前期に引き続き、論理的文章の書き方を中心に学習した。レポートの構成やインターネットによる必要な情報の検索と要約、引用のしかたなどを、実際にテーマに沿って書く練習を行った。福岡伸一「動的平衡」を授業の中だけではなく、教室外の活動も含め読み、その概要説明文を作成した。

理系・口頭表現

大学生活において、より適切なコミュニケーションがとれるように、様々な場面に関してどのような会話をすればよいのかを、問題のある会話例を修正しつつ、さらに、工夫を加えるという練習を行いながら学んだ。さらに、前期に学んだ様々な分かりやすい話し方のテクニックなども使って、自らの研究内容を専門外の人にもわかるように発表する練習をした。

工学系（国費）・口頭表現

適切に日本語を使えるようになるために、ラベリング、オーダリング、ナンバリング等の技術を学び、同じ素材を使って話す順序を変えることにより効果が異なるということ実践的に学んだ。さらに、魅力的に話せるようにするために、見たい映画について発表し、それを実際に視聴することによって日本の文化的側面について学んだ。また、自らの研究内容についてわかりやすく発表する練習をした。

工学系（国費）・文章表現

さらに高度な文章表現能力の養成を目的に、図表の説明・引用の仕方・レポートの書き方を学び、レポートを2回作成・発表した。1回目はグループで（資料丸写し防止と分析力養成のため図表を元に分析）、学期末の2回目は各自で行った。テーマは自由。

工学系（私費）・文章表現

読む力、書く力の練習。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む練習、書く練習をする。最終目標は、共通テーマに基づくレポート作成にある。共通テーマは「グローバリゼーション」である。「市場原理主義」「グローバル・キャピタル」「グローバリゼーションへの懸念」の各小テーマに関する資料を

読むなかで読む力の養成を、そしてレポート作成作業のなかで書く力を養成する。

工学系（私費）・口頭表現

ディベートと読書活動を行った。ディベートは、事前準備をした意見表明、即時的判断を要する意見表明、相手の意見を踏まえた意見表明、議論の調整役としての司会の役割を明確に意識させた。読書活動は、基本的には授業外の活動であるが、自らの読むスピードを意識できるように、初回、中盤、終盤に計時した。また、中間報告、読後報告を課した。いずれの活動も、常に自分の行動のモニターを促すことを心がけた。

2年前期**文系・文章表現**

日本社会・日本文化に関する文献等を読み理解を深めるとともに、レポートや卒業論文に必要な論理的な文章の書き方を学んだ。小学校での英語教育導入、ニート問題の中からテーマを選び、資料を読みながら、アウトラインと序文を作成した。

2年後期**文系・文章表現**

前期で学んだ内容をふまえ、より高度な読解力、文章表現力の向上を目指した。要約と引用の方法を中心に学び、興味のある本の内容を紹介するレポートを作成した。ここ数年話題となった新書を十数冊準備し、選んでもらった。

授業アンケートの結果

例年のように、授業終了時に行われたアンケート結果では、ほぼ全項目において非常に高い評価を得た。主な項目を下に示す。（4点満点）

- ・この授業はシラバス等で説明された授業目標や評価方法に沿って行われましたか（4.0）
- ・この授業に意欲的・自発的に取り組むことができましたか（3.9）
- ・この授業で設定された学習内容を理解できましたか（3.9）
- ・担当教員の熱意や工夫を感じましたか（4.0）